「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0310　◇◆◇　　14/12/24

【　今年の特徴的な相場を振り返る　】

今年も残り数日、2014 年の為替市場を振り返った場合、例年と比べて幾つか興味深い事象を見ることが出来る。そこで今年最後となる今回の当レターでは、今年の特徴的な相場動向 3 つを振り返るとともに、来年の動静についての「第一報」を、ごく簡単に報じてみたい。

<< ドル/円の年足が 3 年連続「陽線引け」 >>
もちろんまだ確定したわけではないのだが、筆者の参考にしているデータでは今年のドル/円相場は 105.30 円レベルで取引が始まっており、本稿執筆時は 120 円台。さすがに、年末までの 1 週間で 15 円以上のドル「暴落」は予想できず、年足の陽線引けはほぼ確実と言ってよい。
ちなみに、年足が陽線引けとなるのは 3 年連続のこと。これは、1995-97 年以来の出来事であり、来年は過去に一度も観測されていない「4 年連続の年足・陽線引け」――に挑むことになる。

一方、今年の年初に当レターでレポートしたように、経験則では「1 月の月足陰陽と、年足陰陽が同じになる確率が高い」――とされている。1990 年以降昨年まで 24 年間の戦績は 15 勝 9 敗だった。そうしたなか、今年の 1 月相場は「丸坊主」に違い非常にしっかりした「陰線」。つまり、経験則からは一年を通して「ドル安・円高」が予想されたものの、こちらは大外れとなった。

<< ドル/円は 3 年連続の「12 月に年間ドル最高値」記録 >>
今年のドル/円相場の年間ドル最高値は 121.84 円でこれは 12 月（8 日）に記録したもの。
昨年のように、「年初安・年末高」相場にはならなかったが、それでも「12 月に年間ドル高値記録」は 3 年連続となった。

それだけドルの基調が強いと言えそうで、実際ドル/円のチャートを見ると、ここ 3 年間のあいだ大雑把に言ってほぼ一貫した右肩上がりだ。起点は 80 円以下であり、3 年の間に 40 円を超えるドル高・円安が進行していることを考えると、さすがに行き過ぎ・ヤリ過ぎのイメージもなくはない。もちろん、まだドルの上昇余地は残っていると推察されるが、以前から何度がレポートしているように、長期サイクルを参考にすればドルは来年に「7 年周期のトップをつける」可能性が高い。ここからさらにイケイケドンドンで、来年もドルの上値を買い続けることにはリスクがあることを、いまから頭の片隅にでも留めておきたい。

<< ドル/円の年間変動率は 20%で平均上回る、ユーロ/円は 05 年以来の小変動に >>
こちらも過去に何度もレポートしていたように、今年の変動率はドル/円だけでなく、ユーロ/ドルとユーロ/円の三極通貨すべてが歴史に残る小動きに留まる――危険性があったが、ドル/円は年後半の急激な追い上げもあり、結局年間を通して変動率およそ 20%（23 日現在）と平均を超えて終わることが出来た。
それに対して、ユーロ/ドルの変動率は 13.3%（23 日現在）で、平均を大きく下回るものの、1 ケタ台の変動に終わった昨年よりは「マシ」な結果と言えよう。来年以降のさらなる変動率回復を期待したい。

一方、もっとも期待外れに終わった通貨ペアはユーロ/円だろう。今年の変動はここまで 10.8%（23 日現在）。2005 年以来となる「変動率 1 ケタ台」は辛うじて免れたとは言え、2008 年以降は毎年 20%超の変動を記録、前年（2013 年）には実に 28%もの変動をたどっていたことからすると、今年の変動は寂しい限りだ。こちらは、「来年こそ」と、今年小動きに終わったことの巻き返しを期待している。（了）

――末筆になりましたが今年も御愛読ありがとうございました。来年が皆さまにとって良い一年でありますように。なお、来年の原稿は 1 月 7 日付からとなります。ご了承ください。

▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright　(C)　fx-newsletter limited　company All Rights Reserved　◆◇◆